

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300109
法人名	有限会社 ケアサービス菜の花
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	四国中央市中之庄町60番1
自己評価作成日	平成35年3月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いつでも誰でも来訪しやすい雰囲気作りをしています。その為、来訪者は非常に多く、ほぼ毎日のようにあります。又、挨拶には非常に力を入れており、どんな時も気持ちの良い挨拶を心がけています。その他、一人一人との関わりが多く持てるよう、一日の職員の配置も多めにしており、ほとんど常勤の職員です。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議を「菜の花の会」と名付けて、皆に親しみを持ってもらえるように工夫されている。2ヶ月に1回会議を開催して、事業所の活動報告等がされている。第一回の会議時には管理者は、利用者個々に応じた支援を行っていることを説明されたり、今後外出への機会を増やし、地域の人々との交流もすすめたいという思いを話され、民生委員からは「これからは地域の中で出来ることは協力したいと思う」と言っていた。ご家族から、最初は遠慮がちで意見はあまり出なかったようだが、回数を重ねることに意見をいただけるようになったようである。今後、ご家族は交替で会議に出席いただくことになっている。

調査訪問日には、ご家族の来訪があり、職員はご家族を笑顔で迎えておられ、居間で利用者や職員としゃべりしたり、一緒にお茶を飲みながら過ごしている様子がうかがえた。お孫さんが「おばあちゃんと一緒に寝たい」と希望され、事業所で寝具を準備して、利用者の部屋で一緒に泊まって帰ったようなこともある。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

川向 知子

評価完了日

平成23年 3月 5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)  会議や会話の中で、会社の理念に基づき判断、行動するよ うに話し合っている。  (外部評価)  事業所開設時に「地域の中でその人らしく安心して暮らせ る」と事業所理念を作成し、職員会議時等には、理念に基づ きケアや取り組み等について話し合うようにされている。管理 者は「利用者が居心地のよい環境で生活できるような事業所 にしたい」と考えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)  近隣住民や地域の学生との交流、ボランティアの来所、近所 スーパーの利用などを行っている。又、地域の住民と入居者 と職員による避難訓練等も予定している。  (外部評価)  近所の方とはあいさつを交わしている。近くの医療福祉学院 の学生ボランティアが、週1回来てくれて、利用者と一緒に ゲーム等を楽しまれている。これまでは、訪問美容院を 利用されていたが、今後は、事業所近所にある美容院を利用 する予定になっていた。	管理者は「今後、地域の祭りや文化祭等にも参加をしたい」 と考えておられた。地域の方達との関係を深めていけるよう な取り組みをすすめ、さらに、利用者が「安心して暮らせる」 ための取り組みについては、運営推進会議等も活かして、地 域の方達とともに考えていかれてはどうか。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)  近隣の方が来訪してくださったり、こちらからお誘いしてい る。普段のあいさつの時に活動内容を話したり事業内容の 説明等をお話している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月の取組み状況の報告と、前回の話し合いでの問題点や課題はどうなったかなどのお話し合いをし、意見交換を毎回行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議を「菜の花の会」と名付けて、皆に親しみを持ってもらえるように工夫されている。2ヶ月に1回会議を開催して、事業所の活動報告等がされている。第一回の会議時には管理者は、利用者個々に応じた支援を行っていることを説明されたり、今後外出への機会を増やし地域の人々との交流もすすめたいという思いを話され、民生委員からは「これからは地域の中で出来ることは協力したいと思う」と言っていた。ご家族から、最初は遠慮がちで意見はあまり出なかったようだが、回数を重ねるごとに意見をいただけるようになったようである。今後、ご家族は交替で会議に出席いただくことになっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっている。又、支援する中で不明な事などを電話にて相談させてもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>初回の運営推進会議時に、市の担当の方から「利用者や多くの家族に参加していただき、意見を聞いてほしい」等、会議のあり方やすすめ方について助言をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夜間の防犯目的の施錠以外、身体拘束につながるケアは行っていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>足元が不安定な利用者が立って歩こうとされる時に職員は「大丈夫ですか」と声をかけている様子うかがえた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			勉強会で話し合いする機会を持つ予定ではある。今の所職員間で情報の共有を図り、身体的拘束は勿論、言葉による虐待にも十分に注意をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			管理者及び職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業等、権利擁護に関する制度についての理解しており、必要な人にはそれらが利用できるよう支援している。又、支援した実績がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約の際は、十分な時間を取って家族や利用者本人の不安や疑問点の解消に努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			2年に1回家族会を開催し、ご家族様と職員との意見交換及び家族間での意見交換等を行っている。又、運営推進会議に参加されたご家族様からも意見を伺っている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時、利用者の様子を伝えて行事時の写真を見ていただいたりしている。又、月に1回、利用者の近況報告を手紙でお知らせしている。家族会時は、食事をしながら交流や親睦を深めておられ、ご家族からは「預かっていたいてありがたい。良くしていただいて助かってます」等の感想もいただいたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に行われる会議の際、職員の意見が聞けるよう全員に発言してもらうようにしている。又、日頃から報告連絡相談を徹底し、コミュニケーションを図るとともに話しやすい雰囲気作りを心がけている。	
			(外部評価) 2ヶ月に1回職員会議を開催しておられ、必ず職員全員が発言することになっており、ケアや業務等職員が気付いたことや提案等を出し合い、話し合っておられる。職員は、出勤時「申し送りノート」「訪問看護記録」等に目を通すことになっており、職員会議と合わせて、統一したケアが実践できるよう努めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準や職場環境など総合して、他のグループホームと比較しても下回っていることはないと思われる。休憩時間、勤務時間、休暇等も法定通り行われており、希望休も自由に出せ、条件的に問題無いと思われます。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修案内が届いた際は必ず回覧している。研修にかかる費用等は事業所が負担し参加しやすくしている。又、新人が入社した時は先輩から随時実践のアドバイスをうけられるよう勤務表を作成している。その他、勉強会において小規模な研修を行うなど職員の質の向上にも努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会及び四国中央市グループホーム交流会に入会し他のグループホーム職員と交流し情報交換する事でサービスの質の向上を図っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時に十分な時間を取り、生活歴や心身の状況、希望を聞くようにしている。不安なことはないか、入居後はどのような事を望まれているか、ゆっくり何うように気をつけている。又、他の入居者に紹介し早く打ち解けられるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居日までに、家族と時間をかけ話し合いを行っている。また、今まで困っていた事や今後希望する事を聞き、今後の支援につなげている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な時には他のグループホームや他の介護サービスを紹介をするなどの対応をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩であるという事を常に頭に入れ関るようにしている。教えていただく事も多く、感謝と尊敬の気持ちを込めて「ありがとうございます」の言葉は必ず言うように徹底している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様の来訪時や家族会のおりには、日頃の様子や職員の思いについて伝えたり、逆に何か困った事は無いかを話し合っている。又、近況報告を月に一度ご家族様に送り、日頃の報告をしている。入居時には、ご家族様の協力が必要であり共に本人を支えていきたいと、伝えるようにしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様や親戚などとの交流は頻繁にあるが、友人知人は少し遠のきがちである。馴染みの人や場所との関係を深められるよう、本人の希望を聞いてゆきたい。	
			(外部評価) 調査訪問日には、ご家族の来訪があり、職員はご家族を笑顔で迎えておられ、居間で利用者や職員とおしゃべりしたり、一緒にお茶を飲みながら過ごしている様子がうかがえた。お孫さんが「おばあちゃんと一緒に寝たい」と希望され、事業所で寝具を準備して、利用者の部屋で一緒に泊まって帰ったようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の人間関係に注意しフロアーの席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。入居者の状態を観察し、必要に応じて会話などに介入し穏やかに生活が送れるよう支援している。又、皆が参加できるレクリエーションを行いレクリエーションを通じて入居者どおしが交流できるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなられたり、遠方に行かれる等、サービス終了後関係を継続する事が困難である方ばかりであり、関係は切れてしまっている。しかし、死亡などにより不本意にサービス利用が終了した方のご家族様には、今後もお付き合いをしてゆきたいとお手紙を送らせていただいている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で、本人の希望を知るよう努めている。入居時やご家族様の来訪時にも話を伺うようにしている。TVが欲しい、誰かの名前を呼ぶ、一度家に帰りたい等、普段の会話の中の言葉を職員間で情報交換し把握するよう常に努め、環境整備や物品購入、ご家族への電話等、支援の方法を考え実行している。 (外部評価) 職員が気付いたことは、日々の「支援経過記録」に記入するようになってきている。言葉を発しにくいような利用者は、しぐさや表情をよく見て意向の把握に努めておられる。	日々の利用者とのかかわりの中で知り得た思いや意向、暮らしへの希望について情報を集め、アセスメントを充実させて、利用者主体の生活を支援できるような介護計画の作成につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に、ご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人様及びご家族様からできる範囲で聴いている。入居後も伺いたい事があれば、本人様には直接、又ご家族様には来訪時や電話にて話を聞いている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の生活パターンをしっかりと観察し、不穏になる時や場所などを知るようにしている。又、どのような声かけをすれば落ち着くのか、いろいろと試してみて、良い方法があれば、職員間で情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)  スタッフ会議で話し合い、ケアの統一やケアの方法等について見直し等を行っている。  (外部評価)  職員会議でケアをモニタリングして、6ヶ月毎、又、状態変化時には計画を見直しておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)  日々の様子を記録に残し、気づきがあれば職員間で報告、連絡、相談を行い情報を共有するように努めている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)  通院や買い物等に職員が付き添ったり、隣のデイサービスへ参加させてもらうなどし、支援やサービスに努めている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)  民生員、地域のボランティアセンター、地域の福祉学校の生徒、隣のデイサービスなどから来訪してもらったり、こちらから出向いたりするなどしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>事業所の連携医療機関の他、ご家族の意向を聞き通院の介助を行っている。定期受診以外で、風邪などにより突発的に通院を要する時は、事前に家族様に連絡を入れている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>24時間対応の訪問看護師との連携をとっている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>入院時にご家族様や医療機関と情報を共有し、退院に向けて連絡を取り合っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>入居時にこちらの方針や対応可能な範囲について説明している。又、訪問看護師にも協力を依頼している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(外部評価)	(外部評価のみ)
			<p>利用者やご家族の中には「事業所で最期まで見てほしい」と希望している方もいるようだ。「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明して、入居時時点での支援の意向もお聞きして同意を得るようにされている。事業所では最期まで支援する方針であり、管理者は、今後「さらに、対応や介護等の知識や技術を勉強して職員の不安の軽減にも取り組んでいきたい」と話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  緊急対応のマニュアルを作っている。又、心配蘇生や応急処置などの対応方法を、消防署に依頼し、研修予定である。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  災害時のマニュアルを作っている。又、避難訓練を実施している。次回避難訓練の際は、地域の方々にも参加していただく予定である。	次回7月の避難訓練時には、近所の方にも訓練に参加していただく予定となっている。地域の方達と、いざという時に協力し合えるように、地域の方に協力していただけることや事業所から協力できること等についても、話し合われてみてはどうだろうか。又、避難訓練実施後、職員や関係者から出された課題や意見を、さらなる事業所の安全や安心に向けた取り組みや体制作りにつなげていかれてほしい。
			(外部評価)  年2回、消防署の方にも来ていただき避難訓練を実施されており、消防署の方から「火事だーと、もっと大きく叫ぶこと」や「避難するには窓を閉めること」等についてアドバイスをいただいた。運営推進会議時、ご家族からは「地震時の対応について」の質問や「もっと頻繁に避難訓練して欲しい」との要望もあった。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  新入社員には必ず、プライバシー保護についての研修を行っている。	
			(外部評価)  管理者は、日ごろから職員に「自分がされていやなことはしない。自分が言われていやなことは言わない」ことを話しておられ、入浴やトイレ介助等、同性職員の介助を希望する利用者には、希望に応じるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  個人の希望や思いに耳を傾け、したい事・したくない事を主張してもらい、自己決定を優先しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 参加したくない事には無理強いする事なく、どうしたら参加をしていただけるようになるかと考え対応している。又、外出などを希望された場合も時間を見つけに行けるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の服装など出来る限り自分で決めて頂き希望があれば一緒に服を選んだりしている。又、訪問散髪を利用しており、ご本人が希望されればサービスを受けています。その他、ご家族様が美容室に連れて行く時もあります。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの力を活かし、畑の世話をしてもらったり、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。職員は利用者と食事を一緒にとり、楽しく食事ができるよう努めている。 (外部評価) 職員は、利用者と近所のスーパーに食材の買い出しに出かけておられる。調査訪問時、カウンターキッチン越しに職員と利用者がおしゃべりしながら食事作りをされており、利用者は、お吸い物の具のしいたけや白菜を切ったり、料理の盛り付け等をされている方もいた。又、下膳や食器洗い・食器拭き等も職員と一緒にされていた。食事中、利用者は「おいしい。いつも美味しいものを食べさせてもらってよ。幸せじゃわい」と、日ごろの食事への感想や気持ちを話してくださった。利用者の誕生日は、職員手作りのケーキと、ご本人のお好きなメニューでお祝いされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の摂取量をチェックし脱水にならないよう心掛けている。午前・午後お茶やコーヒータイムによる水分補給もしている。食事は各人に合わせた摂取しやすい形態など工夫している。又、体調管理する中で大切な情報の一つとして、摂取量の把握を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施している。義歯装着者は週2回義歯洗浄剤を使用し清潔の保持に努めている。又、口腔ケア用品も週1回ハイター除菌を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄表や本人の様子を観察しながらトイレ誘導や声かけを行っている。オムツの方や尿意の無い方は時間を決め定期的にオムツ交換と陰部洗浄等を行っている。	
			(外部評価) 利用者個々に排泄記録を付けて、傾向の把握に努め、トイレ誘導や声かけをしてトイレで排泄できるように支援されている。職員が排泄介助する際にはウォシュレットを使用し、利用者にも使い方を説明されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 薬に頼らない排便を目指し、医師とも相談しながら、食べ物や飲み物などで便通が良くなるよう努めている。結果、便秘薬が不要になった方や、不要になりつつある方もおり、今後も続けてゆくつもりである。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、午前午後ともに入浴できる体制をとっており、本人の体調・希望・タイミングに合わせて入浴を楽しんでもらえるように心掛けている。入浴を希望されない方にも清潔保持の為、週3回は入浴して頂ける様、支援している。ただ、受診等による付添いもあり、職員の都合に合わせて頂いていることもある為、今後個々の希望に合わせた入浴ができるよう改善してゆく必要があると思われる。	
			(外部評価) 午前と午後にお湯を張り替えて、毎日、入浴準備をされている。ぬる湯がお好きな方もおられ、希望に応じて支援されている。浴槽にご自分の力で入ることが難しい利用者は、現在、シャワーや足浴を支援されているが、今後は、併設デイサービスの機械浴を使用したり、介助方法を探り入れて「利用者が浴槽で温まれるように支援していきたい」と考えておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は体操などに参加していただき活動量を増やすことにより安眠できるよう努めている。不眠時の傾聴や、希望があれば湯たんぽを使用するなどして支援している。介助の必要な方には定期的に臥床するよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のファイルに薬の成分表を綴り、服薬介助方法・注意点も職員会議で共有している。又、一人ひとり手渡しや介助にて服薬し、確認を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事のお手伝いや畑仕事など個々の好きな事を行っていただいている。レクリエーションや作業療法は毎日、外食や社会見学などの外出行事も月2回は行っている。又、近くへの外出は随時行えるよう努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スーパーへの買い物や、近所のハンバーガーショップへの外食、畑仕事へ行く等、その他にもいろいろな所へ外出している。その他、お墓へ行きたい等希望された場合はご家族様に連絡し協力してもらっている。	
			(外部評価) 月1～2回は外出行事を決めてドライブ等をされている。食材の買い物に近所のスーパーへ行ったり、近所の公園に出かけておられる。ハンバーガーショップに出かけた際には、普段は食の細い利用者も意欲的に食事をする様子が見られるようだ。	職員は「暖かくなったらもっと外出をしたい」と話しておられた。ご本人の行きたいところや懐かしい場所に出かけたり、又、時にはご家族も一緒に出かけるような機会等も作ってみてはどうだろうか。さらに、利用者が社会とつながりを持って暮らしていけるよう、個別の外出等も工夫してみてもうかがうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) トラブルを避ける為、現金は本人には渡していない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りは無いが、年賀状の届く方はいる。又、電話も家族と相談し、可能な限り対応してもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関周りには、季節が感じられるよう職員と入居者様が共に花を植えている。施設内はバリアフリーで壁全体に手すりを設置してある。施設内や玄関の掃除は毎日行っている。トイレはいつでも行けるよう三カ所設置し『トイレ』とわかりやすい様、張り紙をしてある。各居室の担当者がおり、入居者の希望を聴くとともに環境整備に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>敷地内に事業所の名前にちなんで「菜の花畑」と名付け、玉ねぎ、いちご、エンドウマメ等の野菜を作っておられ、畑の手入れを楽しみにされる利用者もいる。居間の天窗からは、自然の光が入り明るい。利用者が昼食後に居間の床を掃除されている様子が見られた。居間に加湿器が置かれ、温度計湿度計で、調節している。管理者は「利用者の生活にメリハリを付ける」ために、午前と午後にレクレーションやリハビリを採り入れておられ、調査訪問時には利用者と職員の笑い声が聞こえてきた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>テーブルやソファを置き、利用者同士で交流したり、一人でゆったり過ごすなどくつろげるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入所時には馴染みの家具などの持ち込みをお願いしているが、使い慣れた家具を使用したり本人が居心地の良いようレイアウトするなど思い通りの部屋作りができている方もいれば、全て家族様の選んだ物だけの部屋もある。本人様が居心地の良い空間となるよう、引き続き工夫しなければならない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各居室の入り口には、それぞれ違ったのれんをかけておられ、部屋を間違えやすい利用者の居室入り口には、名前を大きく掲げておられた。ご家族の写真や利用者の若い頃の写真を飾っておられる方もある。カレンダーに法事で自宅に帰る予定をメモされている利用者も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手すり付きのバリアフリーの福祉住宅で安全に設計されており、トイレや居室などに目印をつけ場所が分かるようにしている。</p>	